
ONE PIECE 最強の転生者

横山 龍也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONE PIECE 最強の転生者

【Nコード】

N0864Z

【作者名】

横山 龍也

【あらすじ】

神様のミスで死んでしまった主人公は、三つの漫画の力を授かりONE PIECEの世界に転生させられてしまった。とりあえず主人公がすることは・・・？

プロローグ

「初めまして」

俺は誰かに声をかけられた。

ここはどこなんだろう．．．もしかして夢？

辺りは真っ暗で何も見えない。

そう思った瞬間、俺の前に光とともにやってきた女性。

「初めまして、私は全ての世界を統括する神です」

はあ？

なんか突然やってきた女が変なことを言い出したぞ？

俺は何がなんだかわからない状況に混乱している。

しかし、そんなこともお構いなしにその女が話始めた。

「あなたは死にました」

はあ？

本日二度目の混乱。

「あなたの人生はこれからでした。しかし私のミスであなたは死ぬことに・・・」

じゃーお前のせいじゃねーか！

夢だからなのかうまく声が出せない。

「お詫びとしてあなたをほかの世界に転生させます」

いやいや、勝手に決めるなよ神様。

「そうですねえどこが良いですか？」

どこがって・・・どんな世界があるかもわかんないのに良いも悪いもあるかよ。

「あなた・・・無口ですか？」

何も言わない俺に対して神様はそんなことを聞いてくる。
だから喋れないんだって！

「むうゝ仕方ないです。ではルーレットで決めさせてもらいますね
！」

勝手に決めるなよ！

てか、もうなんかルーレットみたいなもの回ってるし・・・。

ぐるぐるぐるゝ

てが多いな！

何だそのルーレット！

俺の目の前には1000以上の項目が書かれたルーレット。
俺って昔から動体視力だけは良いんだよなあ。

バンッ！

急に止まるルーレット。

そして、そこに書かれていたのは『ONE PIECE』。

え？ONE PIECEって・・・ワンピース？わんぴーす？
あの漫画の????

「ではONE PIECEの世界に転生させますね」

また勝手に言ってやがる。無理に決まってるだろ・・・てか死ん
じゃうって・・・。

「あ、今のままじゃまたすぐに死んじゃいますね」

おお？

もしかして俺の心が通じたのかい？

少し嬉しい俺。

「では3つの力を授けます」

神様がそう言っと、また回りだすルーレット。

いや、それもルーレットで決めるのかよ！

「決まりました。

一つ目は漫画『めだかボックス』のキャラクターである球磨川 楔
マイナス
の過負荷の力【大嘘憑き】
オルフィクシオン

。

二つ目は漫画『BLEACH』のキャラクターである朽木 白哉が持つ斬魄刀【千本桜】。

三つ目は漫画『Get Backers - 奪還屋 -』のキャラクターである美堂 蛮がもつ【邪眼】。

この三つです！それでは転生〜」

神がそう言つと俺は頭が痛くなり、気を失った。

くろせしんいち
黒瀬新一。 21歳。

身長172cm

体重55kg

容姿

黒髪で瞳の色も黒の日本人。

顔は上の中ぐらいのかっこよさ。

性格

優しく冷静沈着でおおらかなO型。しかしキレたら物凄く怖い一面も持つ。

能力

人並以上の運動神経とずば抜けた動体視力の持ち主。

神様から与えられた能力は【大嘘憑き】^{オールフイクション}、【千本桜】、【邪眼】の三つ。

オールフイクション
【大嘘憑き】

^{すべて なかったこと}現実を虚構にするスキル。傷を負った現実そのものを「なかったこと」にして傷を負う以前の状態に戻したり、自分や他者の死、視力等の五感さえも「なかったこと」にできる（因果律に関与するスキルの為、自身の死に対しては自動で能力が発動し、死にたくても死ねない状態）。

【千本桜】

能力解放と共に刀身部分が目に見えないほどの無数の刃に枝分かれし、対象を斬り刻む。この刀身に光が当たることで桜の花弁を思わせるように見える。だが一方で、解放中は刀身が消えてしまったため、斬魄刀を通常の「刀」として使う事が出来なくなり、防御が手薄になるなどリスクも生じる。そのため力のある相手と接近戦を行う場合などには、あえて解放を行わず「刀」のまま剣技で戦うことも多い。

解号は「散れ『千本桜』（ちれ『くもんぼんぎょく』）」。卍解時にも唱えることがある。

【邪眼】

相手に1分間の幻影を見せる。複数人、動物にかける事も可能。2
4時間以内に3回まで、同じ人間に1度しか通用しないという制限
が有り（瞬きをしなければ同時に複数人にかける事も可）、この禁
を破ると世界から消滅し他者の記憶からも完全に消滅する。

プロローグ（後書き）

さてこれからどうなるのか・・・。
とりあえず好きなように書きたいと思います！

マジで転生しちゃったよ・・・

目が覚めるとそこはあたたかい布団の中だった。

やっぱり夢だったのか・・・？

新一がまだぼーっとする頭でそんなことを考えていると、急に現実
に引き戻された。

「目が覚めたようだね」

女の人の声。

新一は身体を起こし、その声の主を確認した。

「・・・・・・・・!!」

見たことがある姿。
あれは・・・・・・・・。

ノジコ？

なんと新一の目の前にいたのはONE　PIECEに登場するキャラクターのノジコだった。

やっぱり夢じゃない・・・？

それを確認するために、新一はノジコに話しかけてみる。

「ここは？」

「ん？ここはココヤシ村だよ」

やっぱりそうだ！

俺は本当にONE　PIECEの世界に転生してしまったのだ。

「何も覚えてないのかい？」

ノジコは俺を心配しているようだ。

俺はとにかく情報を得ようと「ああ」とだけ答えた。

「あんだ、この家の前に倒れてたんだよ？本当に何も覚えてないのかい？」

覚えていないわけじゃない。

むしろ頭も覚醒してすっかりしている。あの神様とかいうやつのもも……。

俺ははっきりと確信した。

本当にONE PIECEの世界に来たんだと……。

それがわかっただけでいい。

まずは、今が原作のどの辺りなのかをノジコに聞いてみよう。

「ノジコは一人暮らしなのか？」

とりあえず今の状況を知るのなら、この質問でいいだろう。

「あんたまさか……」

「？」

「変なこと考えてんじゃないでしょうね？」

なっ！！！！

質問を間違えたのか？勘違いされてしまった。

「あっはっはっは。冗談だよ！」

そういえばノジコってこんな感じだったっけ……。

「そっだねえ……。今はなかなか家に帰らない妹と二人暮らしかな」

妹……。。

ナミのことだ！
ってことはまだルフィはナミを仲間にしていない……。ってことでいいのか？

「そうなんだ。えっと……。俺、行かなきゃいけない所があるんだけど船とかあるかな？」

俺は確信を得るためにそう言う。

「……………」。

あんたがどうやってこの島に来たのかはわかんないけど、今はこの島からは出られないと思ったほうがいいよ」

「どっして？」

「この島はアーロンって海賊に支配されちゃってるのさ。」

アーロンはこの島に来る者も出る者も許さない……。だからこの島に船はないし、出て行こうとする気でもすぐに見つかって殺される」

やっぱりまだアーロンがいるのか。

ノジコ見た目は原作通り……。ってことはまだルフィは東の海にイーストブルーいるってことか。

なら……。俺のすることは、せつかくONE PIECEの世界に
来たんだからルフィと旅でもするか！

やることも決まったし、ルフィを探しに行こう！

俺は短絡的にそう考えた。

「ノジコ、なんかお世話になったみたいで……。ありがとな」

「いや、それはいいけど……。まさかあんたこの島を出るつもりじゃないだろうね？」

ノジコの表情が変わる。

「いやいや、ちょっと散歩してくるだけだよ」

俺は適当にそんなことを言っ て家を出た。

いやゝまさか本当に転生するとは・・・。

ん？

みかんの木の下に何か落ちてる。

俺は悪いと思っ たが、みかんの木の下に手を入れてそれを手に取っ た。

「これは・・・」

そこに落ちていたのは刀だった。

「もしかして・・・千本桜？」

そういえばノジコは家の前に俺が倒れてたって言ってたな。
この世界に来た時にみかんの木の下に転がっちゃったのか？

しかも．．．。

なんのサプライズかは知らないけど、今の俺の格好は死覇装^{しはくしょう}．．．
つまりは黒い着物だ。

さすがに隊首羽織^{たいしゅおひ}は無かったが、まあこの服装のおかげで刀を腰に
携えることが出来た。

俺は今アールンパークに向かっている。

目的はもちろんアールンをぶっ飛ばしてこの島を出て行くためだ。

あと、この3つの力がどれぐらい使えるか．．俺の強さも知りた
いしな。

普通は修行とかして強くなるんだろうけど、2年とかかかったちゃっ
たらルフィたちは魚人島に行ってしまうし．．．。

ぶっつけ本番が俺のモットーでもある！

もしこれで死ぬことになってもそれはそれだ。

どっちみち一回死んでるらしいし、ONE PIECEの世界で楽しむためには強さがある。

アーロンを倒せたらそこそこ強いだろ！

とりあえず今のゾロやサンジより強いってことになるしな。

そんなことを考えながら歩いているが、まったくアーロンパークにたどり着かない。

「・・・・・・・・」

どこにあるんだ？

たしかココヤシ村から近かったような・・・。

「あゝあ、空でも飛べる能力にしてほしかったよ」

すでにやる気をなくしてる主人公・・・。

「てかなんでココヤシ村からなんだよ！こつこついつのっていきなりル
フィ発見！とかなるんじゃないの？」

「あ」

そんなことを言っていたらアールンパークが見えてきた。

「やべえ．．．緊張してきた」

三つの力を貰い最強かと思われた主人公だったが、心は一般人な新
一だった。

「やっぱ死にたくねえー」

マジで転生しちゃったよ・・・（後書き）

結局新一はアールンと戦うんですかねえ？

実際に転生したら絶対戦わないと思います。
だってアールンとか恐すぎじゃん？笑

新一、初めての戦い

とうとう来てしまった。

新一は今、アーロンパークの入り口前に立っている。

「行くか・・・」

意を決してそう呟くと扉わゆっくり開く。

おじゃまします・・・。

心の中でそう言う。

口には出さないぜ？
だってかっこ悪いじゃん！

「ああん？」

扉を開けた先にはアーロンがこちらを睨んでいる。

恐ええええええええ

「なんだてめえは？」

さらに声を荒げて言うアーロン。

まあ、いきなり嫌いな人間がやってきたら機嫌も悪くなるだろう。

そう考えていると、モブキャラである魚人が新一に近付いてきた。
本来ならルフィたちに一瞬、一コマで瞬殺される程度の奴らだ。

でも実際見たらめっちゃ怖い！

しかしそんな思いを悟られてはならないと、俺は強気な態度を取る。

「お前らがこの島を支配してるアーロン一味か・・・悪いけどお前らを潰させてもらう」

言った――――！！

うつわ、凄い顔でアーロンに見られてる・・・。

でももう後には引けない。

俺はゆっくりと千本桜に手をかけて、そして刀を抜い・・・・・・・・・・
抜けねえ！！

あれ??

そういえば刀って素人が抜くのは難しいんだっけ？

やたら堅いんだけど・・・・。

やばい！このままじゃめっちゃかつこ悪いじゃん！

くっそ〜こんなことなら来る前に練習しとくんだった・・・・。
ぶっつけ本番が仇になってしまったよ。

ん〜もしかして角度とか関係あるのかな？

俺はアーロンたちにバレないようにそっと刀を引き抜こうとした。

カキン・・・。

お？

なんかわかんないけど抜けた！！

「そんな物騒なものを持って何するんだ？」

アーロン一味のモブキャラたちが新一に近付いてきた。

えっと・・・確か解号は・・・。

「散れ・・・千本桜」

新一がそう言うのと千本桜の刀身が消えた。

「・・・刀身が・・・消え・・・」

モブキャラやアーロンたちも驚いている。

その瞬間、モブキャラたちが千本桜によって斬り刻まれた。

うつ．．．。

予想以上にグロい．．．。

俺の周りではモブキャラたちが血塗れになって倒れていく。

てか勝手に斬り刻まれたけど．．．まあ、初めてだしコントロールできないのも当然か？

あ、ここはかっこつけるところじゃね？

「俺はアーロンに用があるんだよ。雑魚は引っ込んでな」

言っっちゃったぜ！

ってかめっちゃアーロンが睨んでる。

「てめえ．．．よくも同胞を．．．」

アーロンはそう言いながら座ってたイスから立ち上がった。

で、でけえー！！

俺の倍はあるんじゃないか？

そう思わせるほどアーロンの身長はでかい。

「アーロンさん・・・あんたは座っててくれ」

お、ハチ、チュウ、クロオビの三人の幹部が出てきた。

痛え・・・。

俺は三人の幹部に瞬殺された。

「シャーッハッハッハ。どうやら口だけの男だったようだな」

アーロンが笑っている。

「さてこの男どうするか・・・」

クロオビは腕を組みながら言う。

「・・・殺せ」

アーロンが不敵な笑みを浮かべながら新一を見ている。

「この下等種族は俺の同胞を亡き者にした。こいつは殺して、捨てとけ」

アーロンのその言葉を聞いたハチは倒れている俺に近付き「ニユ、何か言い残すことはあるか？」と聞いてきた。

俺は薄れゆく意識で「雑魚が・・・」とだけ言った。

雑魚はどう見ても俺の方なんだが、最後までかっこよくいたいと思っただけに出た言葉だった。

ザクツ・・・

ハチは持っていた剣で新一の身体を突き刺した。

「シャーッハッハ、少しは気分もすっきりしたぜ。

だが、まだまだ！このままココヤシ村にでも行って、あと2、3人ぶち殺してやるか・・・」

「チュ、それはいい考えだ」

そしてアールンたち4人はスタスタと歩きだした。

あれ？

生きてる・・・。

新一の意識が戻る。

そうか！オールマイクシヨン大嘘憑きが発動したんだ！

なるほど、なんとなくだけど発動の仕方が理解できた。

右手には千本桜もある。

「散れ．．千本桜」

バシユウウウウウ！！

「！！！！？」

千本桜が八チ、チュウ、クロオビを斬り刻む。

そして俺はゆっくりと立ち上がる。

いきなり3人が血だらけになって倒れたので、アーロンは何が起きたのかわからない。

だが、後ろに感じた人の気配に驚愕した。

「どういうことだこりゃあ」

アーロンはキレた時の目で新一を見た。

めっちゃ怖いけど・・・やっぱりここは括弧つけるべきだろう？

『オールフイクション
大嘘憑き！』

『俺の絶命を・・・なかったことにした！』

マネさせてもらったよ球磨川。

でもここからは俺の戦いだ。アールンとの一騎打ち。

この戦いで力をコントロールしてみせる！

新一、初めての戦い（後書き）

いやゝ次はアールンとの戦いですが、どんな戦いになるのか。

ルフィたちはいつ登場するのか。

まったくわかりません！笑

長い目で見てください。。。。

隙だらけの戦い

【そういえば卍解ってどうやるんだ？

確か卍解取得には本体の具現化と屈服が必要だったはず・・・。

卍解とは・・・。

本体の具象化と屈服が必要。

斬魄刀解放の二段階目。始解同様に変形、特殊能力の付加などが伴うが、基本的に始解の能力・特性を強化したものである場合が多い。戦闘能力は一般的に始解の5倍から10倍と言われており、その強大さ故に斬魄刀戦術の最終奥義とされている。

また、卍解修得者は、斬魄刀の名を呼ぶ事なく始解することも可能。卍解に至るのは才能のある者でも10年以上の鍛錬が必要とされ、卍解修得者は例外なく尸魂界の歴史に永遠にその名を刻まれる。

具象化とは、対話の際に死神が精神世界に赴くのではなく、斬魄刀の本体を死神のいる世界に呼び出す事。卍解に至るのが困難とされる理由は、具象化に至るのが困難なためである。具象化した斬魄刀の本体を倒す事を斬魄刀を屈服させると言い、これに成功して初めて卍解を修得できる。

千本桜・・・卍解形態。

せんぼんざくらかげよし
千本桜景厳

斬魄刀を地面に向けて落とすと同時に解放。落ちゆく斬魄刀は地面に吸い込まれるように沈み、直後、所持者の背後から大量の巨大な刀の刀身が生え、それが塵のように舞って散る。「目に見えないほど小さい千本の刃」が能力である千本桜の刃がさらに増え、総数・億を越すほどの膨大な刃を出現・操作する。

見えない刃で斬りつける本来の用途以外にも、刃を圧縮して殺傷力の高い剣を造り出したり、相手を無数の刃で球状に囲んで逃げ場を無くしたりと非常に応用が効く。

この千本桜も同じようにしなきゃダメなのか？

それだと才能ある者でも10年はかかるって言われてるんだから無理じゃね？

でも始解は解号を言っただけで発動させることが出来た。もしかしたら卅解も意外と簡単にできるんじゃないか？

新一は刀の切っ先を地面に向けて「卅解！」と言って千本桜を地面に落としてみた。

キンッ・・・。

新一が落とした千本桜は重力に逆らうことなく地面に落ちた。

「やっぱり無理かぁ・・・」

いや、もう一回やってみよう！

次はもっと集中して、よくわかんないけど力を入れる感じで・・・。

新一はぶつぶつと何か言いながら千本桜を拾い、何に集中しているのかわからないが、とにかく集中した。」

「どういことだこりゃあ」

アーロンはキレイな時の目で新一を見た。

『オールフイクション
大嘘憑き！』

『俺の絶命を．．．なかつたことにした！』

同胞がやられてキレてしまったアーロン。

新一を睨みながら体に入力を入れる。

『シャーク
鯨．．．オン・ダーツ
ON・DARTS！』

アーロンはそう叫ぶと新一を目掛けて頭から突進してきた。

「はっや．．．！！」

ザクッ！！

アーロンのノコギリのような鼻が新一の心臓を突き刺す。

鼻に突き刺さった新一を地面に叩きつけるが、新一は「大嘘憑き^{オールフイクション}」
と言って立ち上がった。

新一はアーロンに対抗しようと千本桜を解号させようとするが、アーロンの鯨^{ジャーク・オン・ダーツ}・ON・DARTSが速すぎて反撃できないでいた。

アーロンも千本桜の力を見ているので警戒しているのだろう。攻撃の手を休めずに新一を即座に、何度も殺していく。

しかし、何度殺しても立ち上がる新一にアーロンは苛立ちを隠せない。

しかし同時に、新一がなんらかの理由で死なないことを確信するアーロン。偉大なる航路出身の彼は新一が“悪魔の実”^{グランドライン}の能力者であると推測した。

不死身・・・そんな能力があるのかと疑問も感じたが、実際に死なない新一を前にしてそんな疑問は無意味だと悟った。

「死なないということはわかった・・・だがこの俺が下等種族である人間に負けるわけがない」

アーロンはそう言うと新一を掴んで持ち上げた。

それと同時に新一が持っている千本桜を奪い、海に沈めた。

「死なないというのならこのまま殺さずに生かしてやる！」

新一がアーロンの言葉を聞いたのはここまでだった。アーロンが新一の首に手刀を入れて気絶させたのだ。

【よし！正解は出来た。

あとは白帝剣はくていけんにしてみよう。

新一は正解が出来た喜びからなのか、軽い感じでやろうとしていた。

終景・白帝剣しゅうけい・はくていけん。

千本桜景巖の全ての刃を押し固め、一振りの究極の剣にした形態である。

「終景・・・白帝剣！」

シューウウウウウ・・・」

アーロンが新一を持ち上げてしばらく経った。

（どうやら復活しねえようだな）

新一が復活しないことを確認するとアーロンの口角が上がる。

「シャーツハツハツハ、これで安心だな。このままどこかの土にでも深く埋めれば復活してもまたすぐに死ぬだろう」

どうやら無限に繰り返す死を考えているようだ。

確かに大嘘憑オルフィクシオンきでもこれなら復活できないだろう。

まあ、土をなかったことにすれば助かるかもしれないが、さすがにそれは新一には出来ないだろう。

アーロンは新一をとりあえず地面に叩きつけ、指定の椅子であらう場所に座る。

「シャーッハッハッハ」

「・・・一分」

パキ・・・

パキパキパキ・・・

パリーン！！

ザクッ・・・。

「・・・！！？」

今までアールロンがいた世界がまるでガラスのように碎け散り、白帝

剣でアーロンの腹部を刺している新一がアーロンの目に映った。

「お前が今まで見ていたのは幻だ．．．。残念だったな、アーロン」

俺はまんまとアーロンを出し抜いたことでテンションが上がり、クールなキャラを演じていた。

ふっふっふ．．．決まった。

「ふっ．．．下等種族が．．．一体いつから．．．」

アーロンは口から血を吐きながらも聞いてきた。

「お前がキレて俺を見た時さ．．．」

俺のその言葉を聞いてアーロンは倒れた。

隙だらけの戦い（後書き）

なんかアーロンのキャラが崩壊しすぎ？でしたね・・・泣

説明も多くてすみません。でもお気に入り登録が多くて作者は嬉しいのです！笑

テンションだけで書いてる感じもありますが・・・こんな作者でもよろしくです！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0864z/>

ONE PIECE 最強の転生者

2011年12月5日22時53分発行